東京港クレーンに燃料電池実装へ　都と民間4社が協定

#東京 #地域 #関東

2023/5/31 19:00

東京都港湾局と民間4社は、東京港で荷降ろしなどをするクレーンに燃料電池（FC）を実装し、水素を燃料とした荷役作業を実施するための協定を結んだ。2024〜25年にも水素を燃料とした荷役作業を始める。都は荷役機械の水素利用の普及を促進し、東京港の脱炭素化を進める考えだ。

協定を結んだのは東京都港湾局と日本郵船、ユニエツクスNCT（東京・中央）、三井E&S、岩谷産業の4社。東京港の大井コンテナふ頭のクレーン1台が対象となる。

23年中に実施計画をつくり、FC発電装置の設計や製作に取りかかる。24〜25年に荷役をするクレーンのディーゼルエンジン発電機をFC発電装置に交換し、水素燃料による荷役作業を開始する予定だ。

東京都港湾局と民間4社は、東京港で荷降ろしなどをするクレーンに燃料電池（FC）を実装し、水素を燃料とした荷役作業を実施するための協定を結んだ。2024〜25年にも水素を燃料とした荷役作業を始める。都は荷役機械の水素利用の普及を促進し、東京港の脱炭素化を進める考えだ。

協定を結んだのは東京都港湾局と日本郵船、ユニエツクスNCT（東京・中央）、三井E&S、岩谷産業の4社。東京港の大井コンテナふ頭のクレーン1台が対象となる。

23年中に実施計画をつくり、FC発電装置の設計や製作に取りかかる。24〜25年に荷役をするクレーンのディーゼルエンジン発電機をFC発電装置に交換し、水素燃料による荷役作業を開始する予定だ。